令和3年度指定管理者評価シート

1．管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市宇宙劇場
(2)施設概要	①所在地　さいたま市大宮区錦町682番地2 JACK大宮 ②施設の設置目的　市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため ③施設の概要　３～５階　ホール　傾斜型ドーム（直径23m） 座席数　280席（車いす席あり） 5階　第１集会室・第２集会室　定員各36名、 第3集会室　定員20名、研修室　定員48名
(3)指定管理者	株式会社五藤光学研究所
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 平成30年4月1日～令和5年3月31日 ②指定管理料 令和元年度109,286千円、令和2年度123,088千円、令和3年度114,882千円
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況（利用状況含む） ◇利用状況 ・会議室等利用者数40,629人（前年度22,098人） ・ホール関連事業利用者数40,229人（前年度13,874人） ◇業務実施状況 ・集会室等の貸出し ・プラネタリウムの投映、全天周ドーム映像の上映 ・教育普及業務、学校教育支援・学校等連携業務の実施 ②維持管理業務の状況 ・施設設備、備品等の保守管理 ・施設の清掃 ・施設の機械警備 ③その他の業務 ・プラネタリウム「市民の時間」 ・大学連携での講演会「みぢかな宇宙と想像外の宇宙」、「スター誕生～すばる望遠鏡で探る星誕生の現場～」 ・「皆既月食を見よう！」、「さいたま市と宇宙」、「宇宙飛行士特集」、「宇宙兄弟原画展」、「日本の新型ロケット展」 ・日本宇宙少年団さいたま支部に対する活動支援
(6)収支状況	①収入 ・利用料金収入21,389千円　（前年度11,231千円） ・指定管理料114,882千円　（前年度123,088千円） ・その他収入395千円　（前年度1,150千円） ②支出 ・人件費90,305千円　（前年度106,728千円） ・事務費2,080千円　（前年度2,797千円） ・施設管理費及び事業費24,226千円　（前年度27,377千円） ・その他管理経費5,594千円　（前年度265千円） 【自主事業】 ①収入　2,179千円（前年度52千円） ②支出　1,075千円（前年度18千円）

(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	・Twitterでの当日の投映番組及び投映者の告知時刻を早めた。 ・劇場ホールの出口の階段でつまづく利用者が多く危険なため、投映終了後に注意喚起のアナウンスを徹底するようにした。
(8)その他	

2. 提案内容の達成状況

（指定管理者から提案のあった項目の達成状況）

提案内容	達成状況
市民の平等利用のための方策	ユニバーサルデザインの考え方に基づき、全スタッフに対して社会教育施設向けの接遇研修、施設ミッション研修等を実施した。また、障がい者の皆さまが安心してご利用いただけるように筆談や職員による手話での案内を実施した。
施設の安全管理	「さいたま市教育委員会危機管理マニュアル」及び「危機管理マニュアル」を基本とし、さいたま市消防局の指導をいただきながら大宮情報文化センターの防災訓練（地震・火災）、宇宙劇場独自の防災訓練（地震）を実施した。 また、新型コロナウイルス感染防止対策として、マニュアルの整備、消毒液・飛散防止フィルム等の設置、フェイスシールド・マスクの着用、利用者への案内、館内消毒等を徹底した。
利用者の満足度の向上	利用者満足度の向上に資する事業として、以下に挙げるような取り組みを実施した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底しつつ、縮小した「宇宙劇場まつり・プチ！」の拡大開催 さいたま市の誇りである若田宇宙飛行士を記念し、例年行っている事業だが、昨年度縮小していた規模を感染症対策を徹底して拡大した形で開催した。具体的内容として、若田宇宙飛行士のメッセージを伝えるプラネタリウムコンテンツ「CHALLENGE TO THE UNIVERSE～若田光一の宇宙～」を投映した。また、生解説のプラネタリウムの魅力を最大限に伝える目的で、宇宙劇場の解説員全員で行う「ゆるっとプラネタリウム」を実施した。さらに、癒しや音楽をプラネタリウムに期待する市民の声に応える事業として、さいたま市文化協会と協力し「星空ライブコンサート」を行った。 ・近隣大学の放送大学と埼玉大学との協同による講演会を開催 「質の高い教育をみんなに」のSDGs目標に合致する事業として、放送大学共催講演会「みぢかな宇宙と想像外の宇宙」を実施した。さらに、埼玉大学と連携し、特別講演会「スター誕生～すばる望遠鏡で探る星誕生の現場～」を実施した。 ・例年好評な有名アーティストの曲を使用した自主制作によるプラネタリウムコンテンツの制作・投映 有名アーティストの曲とのコラボレーションが好評な「音楽の時間」を、感染拡大のために昨年度中止した声優イベントに代わる事業として企画。書下ろしのオリジナル楽曲を盛り込んだ番組として制作・投映をした。なお、本イベントは、声優イベントも併せて行い、当館限定の投映であることから、多くの声優ファンが来館するイベントになった。
	・天体観望会（星をみる会）の規模拡大 新型コロナウイルス感染症拡大により規模を縮小し、事前予約が必須のイベントとしていたが、感染対策を徹底しつつ、運用の効率化を行い、受け入れ可能人数を増やすことを実現した。結果、より多くの市民の皆様にお楽しみいただけた。 ・高度なプラネタリウムコンテンツ自主制作体制の構築 昨年度の臨時休館期間中に当館企画・交流スタッフが、（株）五藤光学研究所の制作部門での高度な番組制作技術に関する研修を受けた。その成果とともに、必要機材の投資を行ったことで、インタラクティブなプラネタリウム番組を独自に制作することが可能となった。今年度はその第一弾として、さいたま市内の各所を巡りながら宇宙に関するクイズに挑戦する「クイズ☆プラネタリウム」を制作することができ、さいたま市に根ざした投映を行った。

効果的なアンケートの実施	・ネットプロモータースコア（Net Promoter Score：NPS）の実施 　今年度も昨年度に引き続き、世界的に多くの企業で実施されているNPSを採用し、実施した。今年度のスコアは39.5であった（このスコアはユニバーサルスタジオジャパンやハウステンボスと同じ程度の高い値となっている）。また、顧客満足度に大きく関連する指標である再来館希望については、プラネタリウムでおよそ9割、集会室でも8割強の再利用の希望がある。
天文・科学・文化の普及活動	天文・科学・文化の普及活動として以下を実施した。 ・身近なものと宇宙とのつながりの紹介 　さいたま市内の各所を巡るオリジナル番組「クイズ☆プラネタリウム」では、市内各所と宇宙とのつながりを紹介し、身近なものと宇宙とのつながりを参加型プラネタリウム投映で楽しみながら紹介することができた。 　このオリジナル番組実現のためには地域に密着した番組制作体制が必要だが、昨年度より地域との連携・構築を進めた結果、今年度に実現することができた。 ・さいたま市の偉人の調査・紹介 　さいたま市の偉人である稲垣田龍を調査し、さいたま市宇宙劇場のオリジナルプラネタリウム投映テーマとしてまとめ、「星空の時間」に投映を行った。調査にあたっては、稲垣氏のご子孫の皆様をはじめ、与野郷土資料館、中央区役所と連携して調査を行い、地域及び施設間連携も行うことができた。 ・学校連携及び体験型プラネタリウムの拡大 　県内5校の高校と連携し、「高校生プラネタリウム文化祭」を開催した。高校生が自ら番組を企画し、制作に取り組み、プラネタリウムを実際に操作しながら発表することができた。 ・感染拡大防止のために中止・延期となった事業の開催 「爆笑！銀河☆☆ーズショー」「SAITAMAなんとか映画祭」「星空と音楽で綴るコンサート」や声優イベント等は感染拡大防止のためやむを得ず中止・延期としていたが、感染拡大防止対策を徹底し、実施した。お笑い、映画、音楽をきっかけとした宇宙への興味をつなげていく事業となった。 ・プラネタリウムと異色のコラボレーションによる普及活動 　地域の英会話教室と連携した「英語の時間」をオリンピック期間に合わせて開催し、英語でプラネタリウムを楽しめる場を提供した。英語をきっかけとして多くの利用があった。
地域団体への支援活動	市民団体「さいたまプラネタリウムクリエイト」やさいたま市青少年宇宙科学館、埼玉大学と連携し、イベント投映や大学の講義の補助を行った。また、日本宇宙少年団さいたま支部の事務局運営及び活動支援を行い、各分団長やボランティアと連携し、計27回の活動を実施した。
利用促進・広報活動	利用促進・広報活動として以下を実施した。 ・オンラインを用いた広報活動の促進 　ホームページの随時更新を行うとともに、Twitter公式アカウントとブログにより宇宙劇場のイベント情報や、投映内容、天文現象等の楽しみ方を積極的に発信した。 ・パブリシティの強化 　電子媒体、書籍問わず、当館を取り扱いたいという要望に積極的に対応し、それぞれ読者層の異なる幅広い世代にアプローチした。 ・地元放送局のNACK5との連携 　NACK5の番組に当館スタッフが出演し、宇宙についての学びを提供するとともに、当館事業の紹介を行った。

３．評価

（1）指定管理者による評価

今年度は、プラネタリウム運営事業及び貸し部屋事業において、市との連携により新型コロナウイルス感染防止対策の取り組みを継続しつつ、各事業において昨年度に縮小・休止していたサービスの再開・緩和を両立する運営を心掛けた。

学校等教育支援業務では、青少年宇宙科学館と連携した学習投映の再開や、市内の幼稚園及び保育園向けに幼児団体投映も実施し、感染防止対策による定員制限の都合からお断りする団体様も多かったものの、参加いただいた団体様からは好評をいただいた。地域支援業務では、植竹公民館に講師派遣を行い、市民が天文や宇宙、科学に触れられる機会を創出した。教育普及業務では、星をみる会（毎月）、太陽をみる会、埼玉大学・放送大学から講師を招いての特別講演投映を実施した。

昨年度の臨時休館期間には、スタッフが研修を受け、高度なオリジナル番組制作技術を習得した。その結果、さいたま市内の各所を巡るオリジナル番組「クイズ☆プラネタリウム」を制作することができ、夏休み期間に合わせて来館者とのインタラクティブなコミュニケーションを実現する参加型プラネタリウム投映をすることもできた。

その他、前年度延期や中止となった「爆笑！銀河☆☆ーズショー」「SAITAMAなんとか映画祭」「ゆるっとナイト」事業の実施や、昨年開催することのできなかった声優イベントに代わり、番組と声優イベントの融合事業「Over The Galaxy2 −Trilogy−」の開催、そして「宇宙劇場まつり・プチ」の規模拡大も行った。

新規事業としても、オリンピック期間に合わせたイベントとして「英語の時間」を地域の英会話教室と連携して開催したことを始め、11月には高校生が自ら企画・制作をした投映を行う「高校生プラネタリウム文化祭」を県内5校の高校と連携実施することができた。これらの地域市民、企業と連携した参加型のイベントを本年度から実施できたことは、所管課である青少年宇宙科学館にご調整とご協力を戴いたことや、前年度に再設定した当館の施設運営におけるミッション「わくわくへの架け橋に！」と、ビジョン「くらしに豊かな彩りを」の達成に向けてスタッフが一丸となって取り組んだ結果と考える。

また、貸し部屋事業においては、宇宙劇場を拠点とした利用者の活動支援として、市民活動掲示板を設置し、イベントの告知やメンバー募集ができるように環境を整備した。

以上の活動に満足することなく、引き続き魅力的なプラネタリウム運営と集会室等の貸し出し事業の利用者の満足度向上を図り、利用促進を目指していく。

（2）さいたま市の評価（評価担当課：教育委員会事務局生涯学習部青少年宇宙科学館）

総合評価（B）※A～D

・指定管理者として本年度は4年目を迎えた。前年度に引き続き市民誰もが安心安全に利用できる施設運営が行われた。特に今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の取組みを継続しつつ、各事業において昨年度に縮小・休止していたサービスの再開・緩和を両立する運営をおこなうことができた。

・特に、「利用者の満足度の向上」では、色々な工夫を凝らし企画運営をしている。プラネタリウム業者の強みもあり、研修を生かした番組制作を行うことができた。それに伴い満足度は、高いスコアーを上げることができた。

・所管課と指定管理者との定期的な連絡協議会を行うことで、共通理解・共通行動を行うことができ、よりよい経営の方向性を見出すことができた。

（3）来年度の管理運営に対する指導事項等

・指定管理5年目になる令和4年度も、今までの経験を活かし更なる市民満足度の向上を目指すこと。

・利用促進・広報活動の推進を図り、プラネタリウムの入場者と貸し部屋の利用者数を増加させること。